

平成28年度

第3回上田市総合教育会議(平成29年3月27日) 議事録

1 開会

2 母袋市長あいさつ

みなさんどうもお疲れ様でございます。3月年度末早くも今週土曜日、4月1日からは、新年度、上田城千本桜まつりも始まるという中でございます。この寒さと上田地域は雪が舞ったということで、もう少し開花も先かなという状況かと思っております。

今日は本年度第3回目となる総合教育会議ということで、ご多忙の中をご参会ありがとうございます。昨年度において法律に基づく総合教育会議を設置したところでございます。市長が教育政策についても議論できる、それが可能となり様々これまで協議また調整を図ってきたところでございます。両者において教育政策の方向性も共有しながら、一致して取り組むことができるようになったということが、この会議を設置した大きな成果、あるいは意義を私自身は見出してあります。

一言、申し上げます。市の総合計画において大きな位置づけであります学園都市づくりでございます。とりわけ後期の高等教育、大学の在りようという中においては、この4月に新たなスタートを切る公立大学法人長野大学がございまして、本大学はこの地に開学して50年という永きにわたり歴史を刻み、優れた人材を輩出していただいていたわけですが、私学の学校としてはこの年度末をもって閉じるという、そして新年度新たに公立大学法人としてスタートするというところでございます。

この大学の目指す大学像としては「地域を創造し地域を活性化させる大学である」という位置づけがございまして、人材的には、理事長予定者には学外から白井汪芳氏、学長予定者には、現学長の中村英三氏をお願いをすることになっております。

公立大学法人長野大学が、地域の企業から望まれる持続的な魅力ある大学づくりをしてもらう、そして地方創生、上田市創生に生かすなかで、人の好循環を生み出す人材の拠点として期待をして参りたいと思っております。

本日でございますが、次第にありますとおり会議事項は3つあります。

一つめは教育大綱の分野別施策の進捗状況でございます。前回の中間報告を踏まえて年度末の進捗状況を確認いただき、合わせて今後の取り組みについて報告するものでございます。

二つめの第二期上田市教育支援プランの進捗状況については、これまでの取り組みの状況を申し上げます。

三つめ、最後に教育委員会の主な政策課題の進捗状況については、学校施設の老朽化、少子化の進行に伴う学校の小規模化、あるいは新たな教育課程への対応など、長期的な教育環境の整備も見据えながら、学校教育のあり方をはじめとして、諸課題の対応があると

いう中でのお話でございます。

それぞれ重要な視点がございまして、率直な意見をいただきながら、想いを共有しながら上田市教育のよりよい方向、高みを目指して話し合いをお願いいたします

3 小林教育長あいさつ

本日は第3回の上田市総合教育会議ということでよろしくお願いいたします。

最近4月ということで新しい学期を迎えるということで、教育の話題が様々出ております。本日の信濃毎日新聞の社説では、道徳の教科化、教科書の検定終了を受けまして、考える道徳という方向が、教科書によって生かされていくかどうか、という課題を取り上げてございましたし、昨日の読売新聞の一面トップでは、小学校からの英語教科化の動きなどに備え、教員採用試験を実施する68の都道府県・政令都市のうち、34の教育委員会で、採用試験に英語の力のある受験者を優遇するなど教員の獲得に向けた動きが強まっている、という記事が出ておりました。新しい学習指導要領の実施に向けまして、さまざまな動きが現在出ているところでございます。

上田市の教育委員会としていたしましても、早速、道徳教科書の採択に向けて、来年度早々から動き出すこととなっておりますし、英語の移行措置に向けての準備も本格化していかなければならないと考えているところでございます。

少子化の進行に向けて、学校教育のありかたを考えていかなければならない。このことが喫緊の課題でございます。この課題をまず義務教育として一貫した望ましい教育のありかた、カリキュラムのありかたを根本に据えた地に足のついた議論にしていかなければならないと考えています。

信州型コミュニティスクール、上田市においては条件を満たす学校が今年度末で100%になる。このことは地域における思いが結実したものとありがたく感じているところでございますけれども、この点もさらに、新しい方向へ充実させていかなければならないと考えています。いずれにしてもしっかり学力をつけていくことで初めて、教育としての信頼が築かれると考えております。

どの子にとっても居場所があって、生きがいがある。そんな環境を目指して参りたいと考えております。

本日はさまざまな観点からご協議、ご意見をいただければ大変ありがたいと感じておりますのでよろしくお願いいたします。

4 会議事項

(1) 教育大綱の分野別施策の進捗状況について

中村教育次長

資料1により説明

- ・学校教育分野
- ・生涯学習・スポーツ分野
- ・文化芸術分野

母袋市長

6ページの美術館との連携強化の中で、次年度以降の取り組み「マチ×マチフェスティバル」の下、実験的演劇工房プラス姉妹都市豊岡市との演劇交流事業、これが具体的に両市間で今後どう動いていくのか教えてください。

北島政策企画課課長補佐

実験的演劇工房プラスということで、今年度は高校生が相互に交流しながら演劇を通して高校生の交流を図り、舞台の仕事・仕組みを学んで、来年度は豊岡市の高校生をこちらに呼んで、高校生同士が演劇を通じて交流を図りたいというもので、時期等も詰めていきたいということです。

母袋市長

今年度は上田から行ったということか。

北島政策企画課課長補佐

今年度は市内の高校生同士であり、来年度は豊岡からこちらに来て交流を深めるというものです。

母袋市長

わかりました。

城下教育長職務代理者

2ページまちなかキャンパスについて、市民向け講座 16 講座 45 コマ開催により4 大学間の交流が進んだほか、活動から学校・世代・職業・国籍の枠を超えた多様な交流が生まれていると記載されているが、具体的に教えていただきたい。

翠川政策企画課長

まず我々も入りながら、4 大学とどのように進めていこうか定期的に情報を交換している。高校生もかなり来てコーディネーターと話している状況がある。大学生もコーディネーターとどんな企画をやっているか、かなり話している状況がありかなり交流は進んでいる。

城下教育長職務代理者

コーディネーターはまちなかキャンパスに常駐しているのか。

翠川政策企画課長

そうです。

寺島教育委員

1 番の学力の定着と向上ですけれども、教育委員会としても学力の定着向上を最重点課題としているところですが、今まででも疑問に思わずずっと来て、できあがった家庭学習ノートを拝見して、きめ細かくよくできているとは思いますが、急な発言だが、最初から完璧なものではでき得ないと思うので、最初 3 年ぐらいは試行期間じゃないかと思う。そう考えると一年先

送りするとずっと遅れてしまうので、細かく突き詰めなくても、一年間の実績を見てやらなくても、毎日見ているので実質的には、3ヶ月から半年の試行期間を見れば、この形式でいいかというのはある程度わかるんじゃないかと思う。物事始めるときに必ず年度始めからということではなく、試行期間ですので、場合によっては10月1日から、ある意味で全校での試用、試行という形で半年くらい早めて全校で始めた方がいいんじゃないか。少しでも遅れれば全体が遅れてしまうので、かなり精度の濃いものができるので、三月とか半年位の試行をして、そこで修正すべきは修正など行って、半年後、次年度からまた修正があればして、決定版じゃないので毎年修正して、3年くらいで形にしていけばいいんじゃないか。一年間待つのはもったいないような気がしました。以上です

小井戸学校教育課長

今回初めてということもありまして、導入に当たり今想定されるのは、保護者や先生方からのご意見も初めてとなる。もう一つは現場での活用面でいろいろ課題が多い中で1年間の選定された学校で、と考えてきた経過がある。短期間で次の段階にということも確かにございまして参考にさせていただきたいと思いますが、また内容等についても見直し、様式等も含めて5年間同じでなくて、一年目から継承しながら今後仕組みについては考えていきたいと思っております。ご意見は参考にさせていただきます。

北沢教育委員

1ページ2番の英語教科化の対応について、上田市ではいち早く、英語教育の担当指導主事を配置していただいて大変ありがたい。さらに小学校英語科推進委員会を設置して、2020年平成32年度の教科化完全実施に向けて動いている。今後の取り組みの予定のところで、平成29年度中に推進計画の策定、30年度から先行実施とありますが、非常に忙しいと思います。文科省からは今年の秋までに、はっきりしたことを出すと聞いている。そこから30年度先行実施と考えると、ある面で忙しいと思います。できれば30年度から先行実施していただければありがたいと思っていますので、新年度4月の今から情報を収集し、特に履修形態、履修方法について、上田市独自のものを出していただくと大変ありがたい。あまり固定化せずいくつかのパターン出していただいて、各上田市内の小学校の実情に合わせた履修方法が考えられるとよい。そういった上田市の推進計画を出していただくと、30年度先行実施、32年度完全実施に向けてスムーズに移行が図られると思います。大変期待しています。近隣では小諸市、軽井沢町が先行して実施しています。今年度佐久の北相木小学校でも「朝の時間帯」で既に実施されているが、上田市独自の推進計画を策定していただいてもよい。そのときに「幼保小中高大の連携」とある大学生がボランティアがどんなふうに関われるか、ということも一つの視点として検討いただくとありがたい。以上です

小井戸学校教育課長

確かに30年度先行、前倒しが忙しいということは承知している。実際は32年度に5・6年生の英語科になるということで、2年前、つまり彼らが3年生4年生であるときに外国語活動ということ始めて、2年の期間をおいて、というのが30年に行くということである。確かに忙しい計画である。国の学習指導要領が最近出たところでありますし、かなりわからない部分ある。補助教材も出るという話であります。まだ出ておりません。忙しいことを承知しながらやっていきたいと思っております。大学生の活用という話をいただき、現状ではELTという外国人

の先生が入っているが、活用を考えていきたい。今は中学校にしか入っていないので、小学校にも、ELTの活用含めて、専門的な外部の方の活用についても併せて考えてまいりたい。

母袋市長

英語教育が低学年化していく中で、最初からグラマー(文法)がどうこうでなく、他国語が面白いということをお教えしながらなじんでいくのが理想で、それは地域の力・市民の力を借りてやって行った方が良くって来た。そこで、市内では自主的に、ボランティア的に英語指導をしていると聞くと、どの程度、市民の力で進んでいるのか。市民の力だけでいくとなると、学校はもちろん成果を取込んでいくんだけど、その前の段階で、やっているところとそうでないところ、当然差がついてくる。地域によってはそういうものに対して、どう教育委員会の立場から見ていくのか。あるいは連携してサポートしながら何かできるのか、考え方を聞きたい。

小林教育長

地域の中で力のある方を学校として活用する、これは非常に大事な面だと思っている。市長が言われたように学校ごとのムラができることは困りますので、各学校の先生方の努力も大事だけれども、やはり地域の方の力の活用は非常に大事な面だと。池田議員に答えた時は、地域で入っているのは9人と答えたと思う。ボランティアの方が平日に来るのが難しいというのは、クラブ活動と同じところもありますので、時間の工夫などしながら、両面で、ぜひ先生方が力をしっかりつけると同時に、また地域の方の活用、地域の力が発揮できる分野だと考えていますので、両面からしっかり考えるという気がしています。

城下教育長職務代理者

英語教科化については先生の多忙化につながるのではないかと危惧しています。現場の先生方の困り感を吸い上げて変革を進めていただければと思います。コミュニティスクールも、全校で条件可能になったことですし、地域の方の力を借りてうまく回るように、かといってボランティアばかりに頼るのでは継続性がないなどの問題が出てくるかと思っていますので、そこはしっかりコーディネーターとして主事に見て頂き、上田市独特なものが打出せるのではないかと考えます。早ければいいというものでもないとも考えます。平日、月曜日から金曜日に押し込んでくると先生も忙しい子供も忙しいので、土曜日を活用できないかと考えていくと後手後手になってしまうかもしれませんが、確実に進めるべきと感じました。以上です。

小井戸学校教育課長

貴重なご意見いただいた。先生も多忙でコミュニティスクールの活用、初めてなので、いろんな可能性取り入れながら、試行錯誤という段階が最初は続くと思う。指摘いただいた力をお借りしながら、この計画の中にどこまで入れられるか含めて研究しながら、上田市独自のものが出せばいいと思います。

土曜日授業については、時期もはっきりわからないが、そういった可能性も含みながら、いろんな分野で研究してまいりたい。

平田教育委員

城下委員と同じ考えで、学習ノートつむぐにしても、英語教科化にしても、現場の教師の

方々の多忙感は初めからわかっていることなので、教育委員会としてどうやってサポートしていくかが大切。学習ノート「紡ぐ」に関しては、非常に検討していただいて現場の先生の声聞いたと思うが、一番は保護者がどのように理解して、それを活用していけるかが大切であって、学習習慣の定着を図ることがねらいではありますが、このノートを使って、教師と保護者との連携ができていけばよいと期待している。

コミュニティスクールについては、努力していただいた成果が現れていると思います。統括コーディネーターを配置していただけるということは、そこから一步踏み込んでいる形になっていると思いますので、同様に英語教科化に関しても、先頭に立っていけるものがあるといいと思います。

小井戸学校教育課長

いくつかご提案いただいた。「紡ぐ」はできたが、活用が一番である。新潟県のある市を参考にしたものだが、そこに話を聞いてみると、保護者の理解が一番大変だったと聞いている。一年かけてもだいぶ難しかったそうで、簡単にいくとは思っていない。定着して、子供の学習習慣が身につくことが目的なので、簡単に一年やそこらで結果出るとは思っていませんが、地道にやっていきたいと考えている。

平田教育委員

コミュニティスクールのコーディネーターのところで、マニュアルを作成していくということだが、マニュアルを基本として各校のオリジナリティがあってもいいと思うので、付け加えていただければと思う。

小林生涯学習課長

マニュアルは学校教育課、生涯学習課と公民館で職員が作成しているが、まずボランティア用の心構え、こんなことができる、これはいけないなど一般的なものに事例などを加えた上田市版をこれから作っていきたい。

北沢教育委員

5 ページ、7 の健幸都市うえだ実現に向けた取組状況の二つ目の 、チャレンジキッズ、かっこの中に保育園での運動プログラムとあるが、これは柳沢運動プログラムなのか全く別のプログラムなのか教えていただきたい

滝沢スポーツ推進課長

かつて柳沢先生を取り入れたことがありますが、だんだんと下火になり継続しなかった。今回は保育園とスポーツクラブでどんな運動をするか、例えば跳躍運動はこれとこれ、支持運動はこれとこれ、マット運動はこれとこれなど決めまして、各保育園とで組み立てている。そういった意味では上田のオリジナルとして進めている。

北沢教育委員

どのタイプのプログラムでも結構だが、幼児期の運動は大事だと考える。小学校や中学校での体力づくりにも十分関係してくると考えている。幼保小中の連続性の中で体力づくりを考えていただけるとありがたいと思います。

滝沢スポーツ推進課長

出てきた一つは、中学 2 年生女子の体力不足ということがあるなかで、小学校期の運動をどうするか、少年団にも加入しない子供もいたりという中でどうするか。未就学児から体を動かす楽しさを覚えていただくことが大事ではないか。これが今すぐに小中につながるかは長い目で見ないといけないところもある。9園モデルにしており今後増やしていき、小学校に上がったときにどのような効果があるかを見ながら、今後について考えてまいりたい。

西入政策企画部長

進捗状況については以上とする。

(2) 第2期上田市教育支援プランの進捗状況について

中村教育次長

資料2により説明

母袋市長

12 ページの主な施策の展開、 で健康都市上田の康は違っている。使う場所によって異なるが、ここでは幸ではないか。

中村教育次長

訂正します。

北沢教育委員

12 ページの体力づくりの (仮称)体力づくりチャレンジカードに期待している。小学校の低学年、中学年あたりにこのカードをどのように提示できるかが大事だと考える。先ほど体力について話したが、1年生から6年生まで、興味・関心・意欲が持てる、そして向上心の持てるカードを作って掲示していただけると、各現場の小学校もありがたいんじゃないかと期待しています。以上です

小井戸学校教育課長

未着手ということですが考えがありまして、朝のラジオ体操のようにただカードを作ってハンコを押すというのではなく、健康推進課で実施している「健康チャレンジポイント」という事業があります。それは参加してポイントをためていくと温泉施設利用券がもらえるなどの見返りがあり、子供たちにも同じようにカードを発行して、学校にボールをあげるなど何か見返りという構想を持っている。簡単に進まない状況だが、どの方法が良いのか健康推進課とも相談している。健康推進課では、ポイントためた分を保護者・PTAに向けてあげる事業も始まりましたので、今度は子供版で何か、がんばっているところにあげるということを考えており、進めてまいりたいと思っている。

城下教育長職務代理者

1期と2期目の違いというものは、目標数値化したところにあります。数値で押し図れるとこ

るは見て行くことは大事だが、この成果目標に対して、進捗を図るのにこの数字だけで、この切り口だけで経年変化を見ていくのではなく、違う切り口からも数値をウォッチしていかなければならないとも考えます。これ以外のところはまったくノーマークなのでしょうか。ここにあげてない切り口からも数値が図れるのではないかと思うのですが。

小井戸学校教育課長

例えば1ページから4ページまで、これは指導要領全体の大きな、国語とか算数とかになっているが、その下にいろいろな単元の分析もあるので当然細かいところもやっている。これ以外は、14の施策をまとめた中で、これだけしかないが、学力だけではなく、いろんな、数字にならないような、例えばスポーツの状況であるとか考え方、思いやりなどいろんなものがあると思います。

どうしても数字にならないものはかなり学校ではあると思いますし、特に意識調査もかなり入っており、数値として上がったとか、原因の分析も当然していかなければいけないものがたくさんある。その中で代表的なものを選んだのがこれでありまして、学校教育すべてが必ず分析しなければいけないと考えているが、その一部というご理解をいただきたい。何も見てないという訳ではありません。

城下教育長職務代理者

これに関しては数値を経年で追っていくということでしょうか。目標に達成してしまえば、また新たな項目が出てくると理解して良いのですか。

小井戸学校教育課長

達成したから終わりかというとはそうではなく、続いていくことも大事な視点である。終わるものではない。また、上がるばかりでなく、中には数値が下がっていく方が良いものもありますし、考え方もいろいろございます。5年後は確かに全体の評価をまとめますが、それまでの傾向・経過を分析した上で、その後の学校教育に生かしていく基礎データになると考えている。これで終わりという訳ではない。

寺島教育委員

教育支援プランは今年度から数値目標を入れたことが大きな特徴と言える。お願いですが、今年度は初年度で数値が出ているが、来年度以降、数字はなかなか追いきれないので、可能な項目はグラフにさせていただくと、最終年度に向かってどういう風になっていくのが見やすくなる。数字だけでは追いきれない、着実なのかあるいは下がっているのか傾向が見えるので、ぜひ可能なものはグラフで提示していただきたい。

中村教育次長

調書については当初は1年ごとに評価しようか検討したが、5年後の目標しか設定していないので、1年ごとの数値目標がないということで、削ってしまいました。確かに5年間のうちの1年でどこまで進んでいるかわかりづらい。全てについてできるかわかりませんが、グラフにすれば1年間の成果が5年後の数値目標の上にあるか下にあるかはわかりますので、そういう風にやるかは工夫したい。

平田教育委員

多岐に渡って活動していかなければいけないことがたくさんあることがわかる。一生懸命ご尽力いただいた結果がここに出ていると思う。数値化することの難しさ、様々な社会背景の中で、見える化を目指して数値化するが、数値化それだけが全てでは無い。そこに取り組む過程が大切であると認識している。いくつか気になった数値があります。基本施策 3・4、心理面生活面での支援策で、全体的に中学生の数値が悪くなっている。そういった要因の解明も大切。

3-7- に「家の人と学校について話している」という項目がありますが、中学生だと家庭ではなかなか話しにくいこともありそこだけに着目し数値化するのはなかなか難しい。例えば家庭と断定しなくても、項目の内容を検討することも大事なのかなと思います。

4-10- に「いじめはどんな理由があってもいけないことと答える児童生徒の割合」という項目があり、数値が減っているということを大変危惧している。これは人権に関する問題でもあり、どう考えても高めていかなければならないと思う。

支援に関係する 4-11 においては、取り組まれた実績が数字に現れている。インクルーシブ教育の推進を図ることはすべての子どもたちにわかり易い教育ができるということ。障がいに対する認知がされた時点で、一人ひとりに計画的な支援が必要であり、タブレット等も小学校1年生から一人ひとり持てるぐらいになっていくことが理想と考えている。項目すべて 32 年度が目標となっているが、前倒しで必要なことは対策をたててさらに進めていただきたい。

特に の先生方の研修については、最終年度でなく来年度から研修に参加できる取り組みが必要ではないかと思います。

小井戸学校教育課長

確かに数値化する難しさはあります。項目を選ぶ中で参考にしたのは、国や県の比較できる項目で選んできたものもある。意識調査もあり、下がるものも当然ある。これについては年度変わったところで、中身の 1 年目の検証を各学校にお伝えして、先生にもこの数字どうして下がったのかという問題意識を持っていただかなければいけない。何が原因なのか分かるかどうか分かりませんが、先生方も含めて共有していきたい。

寺島教育委員

6 ページの家庭学習時間、全国の学力テストの中で数値あるが、要は塾での学習時間は家庭学習に入っていないとのことですが、これからますます塾での学習が増えてくると、この数値は減っていくのではないかと。私は塾も家庭学習だろうと思いますので、上田市独自で、塾の学習時間も入れた統計を出して、学校以外でどのくらい学習時間があるかという数値を把握する必要があるのではないかと。家庭学習は定義の仕方があるが、どのくらい子供たちが学校以外で学習しているかという時間をつかんでないと施策にも影響してくるので、提案します。

小井戸学校教育課長

全国調査の比較ではあるが、この項目とは別で家庭学習調査があると思うので、補足資料として提出します。

北沢教育委員

全体的にいえるが、数値で結果が出ているものをすべて数値で評価している。例えば全国学力・学習状況調査や新体力テスト等のことである。算数の問題が解けたかといった結果の客観的な数値と心に関する「好きか嫌いか」といった問いに関する結果の数値は同じ扱いにしてよいとは思わない。だれが見ても客観的な数値は内容を検討し考察を加えてもよいが、例えば、「何かになりたい」等の結果の数値を一緒に考えるべきではない。情緒的な問いの結果を数値で表したときには、慎重に考えなければいけないし、むしろ「傾向」がつかめればいいのではないか。単年度で結果を考えていく項目もあるが、3年ないし5年で考えていったほうがよい項目もあるはずだ。その年度の一点だけ見て、全国と比較してマイナスだからまずいと考えるまい。

3 教育委員会の主な政策課題の進捗状況について

中村教育次長

資料3により説明

質疑なし

4 その他

・文化スポーツ行政を推進する組織体制について

西入政策企画部長

別紙により説明

今後の予定

西入政策企画部長

次回の日程ですが5月頃を予定しています。日程については改めてご報告したいのでよろしく申し上げます。

以上をもって本日の第3回総合教育会議を終わりにいたします

5 閉会